

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

香川県 普通寺市

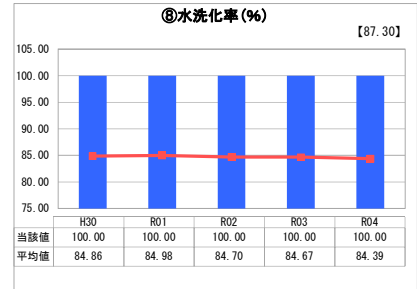
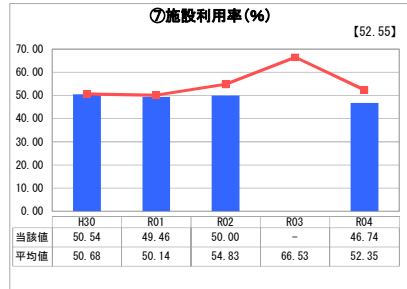
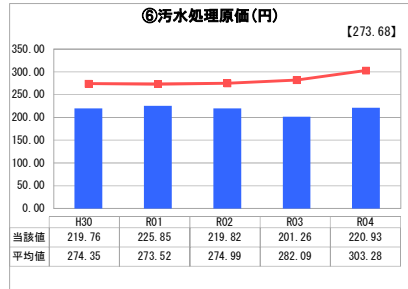
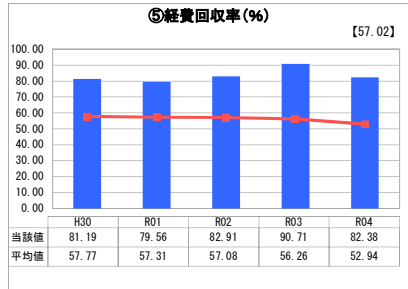
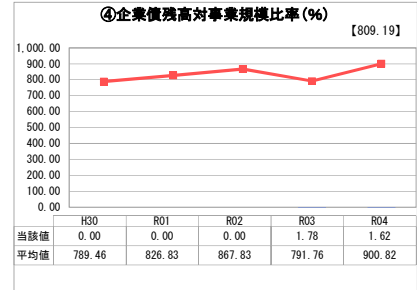
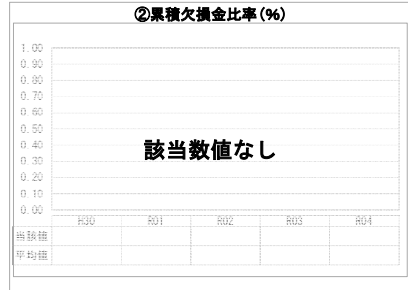
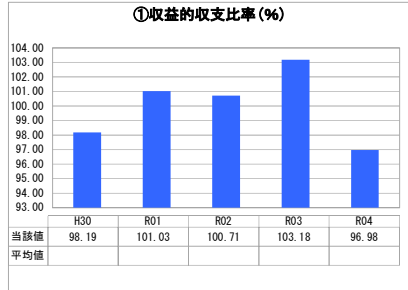
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.10	104.22	3,190

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,682	39.93	768.39
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
335	0.34	985.29

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

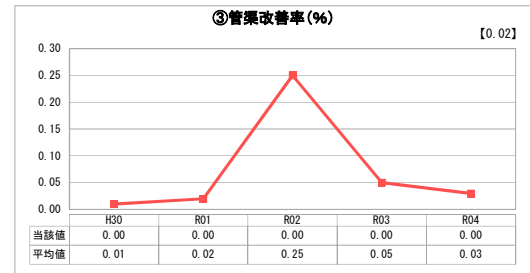
R4年度の収益的収支比率は96.98%であり、前年度から6.2ポイントの減となった。これは有収水量の減少による使用料収入の減少に加え、汚水処理施設の維持管理に要する燃料費の上昇や処理施設の部分的故障に伴う突発的な修繕が発生したことが主な要因である。処理区域の人口減少が顕著な小規模集落における汚水の集合処理であり、施設利用率も例年50%弱の低水準で推移していることから汚水処理施設の運営費は年々負担となっており、R5年度末には近接する流域関連公共下水道へ接続し、汚水処理施設を廃止することとしている。これにより汚水処理に要する費用については低減が期待できるが、R12年度まで元金償還が継続することから、今後も有収率の維持に努め、安定的な経営活動に努めていく必要がある。

なお、⑦施設利用率：R03の当該値は正しくは次のとおりである。  
【誤】 -  
【正】 48.37

### 2. 老朽化の状況について

農業集落排水施設の供用開始はH12年度であり、管渠の耐用年数未満であることから積極的な管渠更新は行っていない。R6の流域関連公共下水道への接続以降は公営企業会計の適用を予定していることから、固定資産台帳を整備し経過年数の把握が可能となる。今後は施設規模や処理区域の将来予測も踏まえ、規模に応じたストックマネジメントが必要であり、必要に応じて計画的な管渠更新を検討する必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

小規模な地域における事業であり、維持管理に主眼を置いた経営を行っている。公共下水道へ接続するまでの間はH28に策定した経営戦略（計画期間：H29年度～R8年度）に基づき計画的な財政運営を行うとともに、R6の公営企業会計の適用後は財務状況を注視しながら規模に応じた安定経営に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。